

▼カロムを楽しむ児童たち



愛知川小学校 カロム体験

6月14日、愛知川小学校で地域おこし協力隊の綿谷さんによる、6年生のカロムスペシャル授業が行われました。

カロムとは、ビリヤードに似た、盤上で行うボードゲームで世界各国で親しまれているゲームの一つです。

児童たちは、はじめにカロムの歴史やルールを学び、実際に班に分かれてカロムを楽しみました。児童の多くがカロムの経験者で、どの班も熱いゲームが繰り広げられていました。

この授業をきっかけに、6年生は「カロム教え隊」として、下級生へカロムを教えながら、学校全体でカロムを通じた交流が行われます。

▼入賞された柔仁会の皆さん



全国大会で優秀な成績を収められました

6月24日、愛荘町スポーツ少年団愛知川柔仁会の選手が、有村町長へ成績報告をされました。

有村町長は、柔道に真摯に向き合い、素晴らしい結果を出しておられる選手の皆さんへの尊敬の念を述べられ、今後も続く大会に向けて激励されていました。

また、9月22日に開催される「マルちゃん杯全日本少年柔道大会」の出場も決まり、全国規模の大会での戦いが続きます。

今後も更なる活躍を期待しています。



▼苗の植え方を教わる園児



町内保育園 さつまいもの苗植え体験

6月19日、町内保育園のさつまいもの苗植え体験がJ A東びわこ南側圃場で行われました。

園児たちは、愛荘町農遊倶楽部の皆さんに、さつまいも（鳴門金時）の苗の植え方を教わり、スコップで土に穴をあけて、苗を入れ、優しく土をかぶせていました。

苗植えの後、ペットボトルで水やりをしていた園児たちは、「おいも大きくなるといいな」「おいもを食べるの楽しみ」と話していました。

10月には、さつまいもの収穫体験が行われます。

▼保護猫活動の授業の様子



秦荘東小学校 保護猫活動のおはなし

7月2日、秦荘東小学校の6年生が「ネコリパブリック滋賀」の中村さんから、保護猫活動について学びました。

中村さんは、保護猫とのふれあいの場と新しい飼い主を探すカフェ「ネコリパブリック滋賀」を運営され、保護猫の譲渡もされています。

児童は「猫にひどいことをする人がいて悲しい」「保護猫の新しいおうちが見つかってほしい」と話していました。

中村さんは「保護猫が元気になっていく姿を見ることが、譲渡先が見つかることにやりがいを感じながら活動しています。みんなも将来やりたいことができる人生にするため、学校で勉強する姿勢を学んでください」と話されました。

小さな命を大切に、人と動物が共存できる、みんなに優しい社会にしていきたいです。

人推協だより
ほっと・あい 第220号

愛荘町人権教育推進協議会

問 (事務局) 教育委員会生涯学習課 (秦荘庁舎)
☎0749-37-8055 FAX0749-37-4192

9月は同和問題啓発強調月間

県および市町では、9月を「同和問題啓発強調月間」と定め、集中的に啓発事業を実施しています。

愛荘町では、啓発物品の配布による街頭啓発を行います。

また、期間中に立て看板、横断幕、のぼり旗を設置し、同和問題への取組を呼びかけます。この機会に同和問題についての理解を深め、差別の解消に向けてできることから始めましょう。

そして、滋賀県では、人権啓発イベントとして「じんけんミニフェスタ」が開催されます。

○第1回○

日時：9月7日(土) 11時から16時まで
場所：ビバシティ彦根 1階 センタープラザ

○第2回○

日時：9月28日(土) 11時から16時まで
場所：ブランチ大津京 さんかく広場

○第3回○

日時：10月27日(日) 10時から15時まで
場所：びわこ文化公園 わんぱく原っぱ



同和問題(部落差別)とは

同和問題(部落差別)は、日本社会の歴史的過程で形作られた身分差別により、日本国民の一部の人々が長い間、経済的、社会的、文化的に低い状態に置かれることを強いられ、生まれるところ誰も決められないのに、同和地区と呼ばれる地域の出身者であることなどを理由に結婚を反対されたり、就職などの日常生活の上で差別を受けたりするなど、我が国固有の人権問題です。

同和問題(部落差別)の解決に向け、私たち一人ひとりが同和問題(部落差別)を自らの問題として捉え、正しく理解し認識を深めて、差別や偏見のない、人権が尊重された地域社会を築いていきましょう。